

特集

心のつながりを感じることを大切に

〜特殊疾患病棟より〜



2階病棟 師長 薄 恵美子

皆さん、こんにちは。2階病棟が、特殊疾患病棟(40床)として4月にスタートしてから5か月が過ぎようとしています。

2階病棟では、20代から50代まで幅広い世代のスタッフが看護師・看護助手・病棟クラークそれぞれ役割をお互いに尊重し、経験やパワーを共有して日々笑顔で頑張っています。

特殊疾患病棟には、主に長期にわたり療養が必要な重度意識障害患者さんや、筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症・パーキンソン病など神経難病患者さんが入院されています。長期的な入院生活になりますので、様々な面で患者さんをサポートできるように努めています。

患者さんのほとんどが、車椅子やベッド上で生活されています。そのため、日常生活に少しでも変化や楽しみが感じられるように、病棟の廊下には看護助手が季節を感じることで飾りなどを作成し、患者の皆さんが快適に過ごせる環境作りを心がけています。

また、患者さんの一人ひとりの状態に応じた看護ケアを提供できるように、プライマリーナーシング制を取り入れています。医師の診断を基にした患者さん個人の看護ケアを充実してまいります。看護師は、受け持っている患者さんの状態の変化に戸惑い、どのように自分が関わり看護していけばよいのかと悩むこともあります。そんなときは、病棟スタッフが互いに意見を出し合い、患者さんにとって一番良い解決策を検討していきます。日々の業務は責任もあり、楽なことばかりではありませんが、患者の皆さんの笑顔や言葉に救われ、ホッとすることがあります。それは、患者の皆さんとの心のつながりに気づかされる瞬間でもあります。

移り変わる医療情勢の中、日々前向きな気持ちを持ち、ゆとりのある環境の中で、2階病棟スタッフ一同心のこもった看護・介護をご提供できるように、今後もより一層努力していきます。



2階病棟 師長 薄 恵美子

「神経難病」とは?

神経組織に原因不明の障害が起こり、慢性の経過をたどる、治療法が未確立である疾患のことです。その結果、全身の医療的管理と長期にわたる生活面や精神面での支援が必要となります。

「プライマリーナーシング」とは?

入院から退院まで、一人の看護師が患者さんの看護ケアを継続して受け持ち、責任を持って看護ケアを提供させていただく看護方式のことです。2交代勤務のため、担当の看護師が不在のときは、担当看護師の看護方針に沿って、他の看護師が担当しています。

病院から



今年も恒例の院内行事である夏祭りを開催しました。日頃、外へ出ることのできない入院患者さんや通所リハビリ利用者さん、毎年開催しているお祭りです。スタッフ一同、企画には毎回趣向を凝らしています。

第一部は、小倉南区朽網地区銭太鼓同好会の方に出演していただきました。数人が歌に合わせて一斉に銭太鼓をリズム良く動かす姿に、入院患者さんや通所リハビリ利用者の皆さんも見入っておられました。

第二部は、初の試みである「そうめん流し」です。各部門のスタッフが準備段階から関わって、シミュレーションを何度も重ねての実施となりました。

当日は、うまくいくか心配でしたが、日頃食欲のない患者さんが夢中で食べる姿が、あちらこちらで見ることができ、「おいしい。何年ぶりかに食べた。懐かしい昔を思い出す」などの声をお聞きすると、「また来年も新しい企画で頑張ろう」と意欲が湧いてきました。

来年の夏祭りにもご期待ください!



通所リハビリテーション日記

芸術の夏

お面作り

夏休みの作品作りとして、6月下旬からお面を作成しました。時間のかかる細かい作業や多くの共同作業などを通して、利用者の皆さんの新たな一面を発見することができたと思っております。非常に良い仕上がりとなったこのお面は、病院の夏祭りに参加した利用者全員がかぶりました。記念撮影をしたり、他の人のものを借りたりなど、多くの笑顔が見られ、より一層お祭り気分を盛り上げてくれました。



ジュース作り



レクリエーションの時間にミックスジュース作りを楽しみました。利用者の中には糖尿病の方もいらっしゃるため、管理栄養士の方と相談しながら、材料などの計画を立てました。当日は、作業を分担しながら、できることに参加していただきました。最近では家事活動をしていないといえ、包丁を持てば大変上手に作業されました。また、男性の利用者の方には、力の必要なオレシジ絞りを担当していただき、全員で仕上げていきました。異なる材料で2回実施し、味については、おやつとともに楽しくいただきました。

新任先生紹介



山田 壮亮 先生

小学校の6年間、学期末にもらう担任の先生からのコメントはいつも「元気が良い。声は大きい。が、落ち着きのない子」でした。気付けばもう30歳を超えておりますが、めげずに自分自身の美徳とここまで楽しく愉快にやってきたと自負しております。お世話になっております、山田 壮亮 先生です。

おがましくも、もう一つの美徳と申しますれば、「出会い」を大切にやってきたことかと存じます。特に、松本信司先生との出会い(縁)は、大学から研修医時代、大学院そして今現在に至るまで、公私にわたって大きく私に影響を与えてくださいました。今こうやって原稿を前に私を居らしめて

いる訳でもあります。正直申しますれば、先生の独特な風貌・発言などから、学生時代の私には「どこぞの何をする人ぞ」とただ不思議な印象ばかりでした。お会いするたびに、気前よくお話しものをご馳走してくださいさるのは今もお変わりありませんが、ただ強烈な時に頑固とも言える先生のご意見を受け入れがたいときはもちろんあります。しかしながら、私自身奇人変人の類を免れ得ませんでした。うし、松本先生と多くの共感共鳴をもって、若輩の私に医師としての哲学をご教授頂いている日々です。最後になりましたが、いつでも気軽に何でもお申し付けください。できないことはできないと正直に言わせて頂きますが、基本的には何か学ぶことがあるのではないかとチャレンジしてみよう、山田です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

トピックス

野菜を食べて元気になる



野菜を毎日食べていますか?なぜ、人間には野菜が必要なのでしょう?

野菜には、各種ビタミン、ミネラル、食物繊維などの栄養素だけでなく、抗酸化力があるからです。

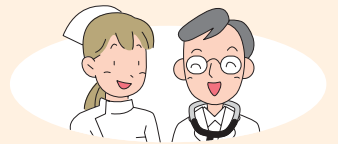
わかりやすく説明すると、私たちは酸素を体内に取り入れることによって、体内に活性酸素というものが発生します。この活性酸素は、過剰に発生すると遺伝子や細胞を傷つけ、様々な病気の原因になると言われています。また、身体の老化を早めるということも分かっています。つまり、この活性酸素を消去して、身体が錆つきのを防ぐ働きをするのが、野菜の色素にある「抗酸化力」なのです。

野菜の色素が複数あるように、その「抗酸化力」を発揮するところも様々。彩りよく食べる大切さが、ここに秘められています。野菜の働きがすごいですね。

当院では、8月21日のおやつバイキングに、野菜を使ったおやつが初めてお目見えしました。「小豆の入ったガトーショコラ」「人参のジュレをのせた豆腐とクリームチーズのゼリー寄せ」「トマトシャーベット」「柚子キャラメルプリン」「メロンのおやつ(5種類)にカロリーを表示して、ご準備しました。緑茶、コーヒー、紅茶といった飲み物とともに、至福のひとときを楽しまれたのではないのでしょうか。国の施策として、「健康日本21」では、成人1日当たりの野菜の摂取目標量を350g以上としています。野菜についての正しい知識を持ち、調理に工夫を凝らし、より多くの野菜を食べることで、健康維持や増進、そして生活習慣病の予防に取り組ましましょう。



地域医療連携室をご利用ください。



当院では、医療機関や保険・福祉などの行政機関・施設との連携を深め、患者の皆さんにより良い医療を提供できるように、地域医療連携室を設置しています。また、安心して退院していただけるように、在宅に向けた支援相談や施設入所に関する相談を始め、介護保険に関する相談などもお受けしています。このほかにも、療養に関する不安や問題、精神的なお悩みなど、何でもご相談ください。

連携室の業務	相談受付時間
1. 紹介患者の受入れ	平日 8:30~17:00
2. 相談と支援	お問い合わせ先
・転院や施設の入所に関する相談	地域医療連携室
・在宅に向けての支援相談	TEL:093-474-3358
・介護保険に関する相談	FAX:093-474-3352
3. 苦情の受付	E-mail:kanri-m@violin.ocn.ne.jp

理念 誠意・信頼・安心

- 1・患者さんの意志と権利を尊重した医療の提供
- 2・患者さんと医療情報を共有し、患者さん本位の誠実な医療の推進
- 3・質の高い医療を提供するために職員の教育・設備の安全・保守管理の徹底
- 4・患者さんが継続して、一貫した受診が出来るよう地域医療機関との緊密な連携